

ほろにか

令和6年4月15日
全国卸売酒販組合中央会

「賃上げ」

兵庫県卸酒販組合

理事長 宮崎 眞彰

(全国卸売酒販組合中央会 総合企画委員会副委員長)

花見シーズン到来。

我が故郷にある世界文化遺産・国宝 姫路城の桜も満開です。

さて、今年の春闘では、岸田首相の「物価上昇率以上の賃上げ率の実現を」の掛け声のもと、大手企業の多くが昨年以上の賃上げ回答をしました。

ただ、残念ながら物価の上昇率には追いついていません。

実質賃金はマイナスで来年以降も継続的な賃上げが求められます。

翻って、酒卸業界は賃上げの現状はどうでしょうか。

「企業は人なり」という言葉がありますが、現状のままでは良い人材が業界には入ってきません。

賃上げをするには当然ながら原資が必要になります。

酒卸業の現状での粗利益率で、継続的な賃上げの原資が捻出出来るでしょうか。

また、4月には貨物自動車運送法の改正により、今後、物流コストの上昇が見込まれます。

メーカー値上げ、酒税の増減税の時に価格を見直しましたが、賃上げに伴う労務費・物流コスト等の増加分を吸収するために、現状の価格を再度見直す時期に来ているのではないのでしょうか。